

在宅啓発に演劇も有効

長尾 和宏

医療法人社団裕和会理事長
長尾クリニック院長

◆多くの著書や講演、演劇を通じた市民啓発活動を、全国を舞台に展開している。

PROFILE

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局。1995年尼崎市で開業。現在、7人の医師と100余人のスタッフで年中無休の外来診療と在宅医療に従事している。



私が在宅医療を始めたのは1995年なので、はや四半世紀がたとうとしています。2000年の介護保険制度創設時から介護認定審査会に医師会が関与しましたが、当初

は懐疑的でした。

「在宅医療推進フォーラム」の第1回が2004年ですが、私は14回すべて参加してきました。私が小冊子『はじめての在宅医療』を作成したのが2007年。たいへん好評をいただき、何回も増刷を繰り返した結果、3万部ほど全国各地に配布しました。そして在宅療養支援診療所制度が創設された2008年から地元医師会でも本格的に推進されました。

近畿二府四県からなる「近畿在宅医療推進フォーラム」も年々盛り上がっています。2016年には多職種からなる「劇団ザイタク」が新神戸オリエンタル劇場において「ピンピンコロリなんか無理なん知っとう？」を上演し好評を博しました。その後、2018年に尼崎と大阪でそれぞれ「独居の認知症」と「末期がんの在宅看取り」も上演しました。忙しい多職種が練習のために集まることは大変でしたが、関西風のアドリブが活きました。

これらの演劇はDVDやYouTubeで拡散し、全国で同様の試みが広がっています。在宅医療の市民啓発において「演劇」という手法はきわめて有効であると感じています。

地域包括ケアから
地域共生社会へ

日本の

在宅医療

の

あゆみ

日本在宅ケアアライアンス 刊
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 助成

